

第5章 復元時代の設定

(1) 復元時代の設定の考え方

名古屋城は築城から空襲により焼失するまでの変遷を下記のような4つの時期に区分できる。

- 第Ⅰ期：築城時～宝暦大修理前
- 第Ⅱ期：宝暦大修理後～焼失前
- 第Ⅲ期：焼失～再建前
- 第Ⅳ期：再建～

天守変遷の中、天守の復元時代の設定としては、表-5.1.1『天守の時代区分と資料及び外観の変遷』で示すように天守台石垣の一部積替えと屋根の葺替えにより、姿が変わった宝暦大修理を境として以下の時期が想定される。

- 第Ⅰ期：築城時
- 第Ⅱ期：宝暦大修理後～焼失前

天守は焼失により失われたが、天守台石垣遺構は天守焼失後の再建時に一部積み替えられている部分はあるが、宝暦大修理を経た第Ⅱ期の姿を概ね現代に遺している。従って上部に復元する天守もまた第Ⅱ期の姿とすることが適切である。また、この第Ⅱ期の天守については、復元に耐え得る豊富な根拠史料が遺されており真実性の高い復元が可能である。以上により、復元時代の設定は第Ⅱ期：宝暦大修理後～焼失前とする。

表-5.1.1 天守の時代区分と史料及び外観の変遷

区分	時代区分		
	第Ⅰ期	第Ⅱ期	
	創建時～宝暦大修理前	江戸期：宝暦大修理後～幕末	明治・大正～焼失前
遺構	・天守台石垣 東面・南面の一部	・天守台石垣 宝暦大修理で北面・西面の大部分、東面・南面の一部を積替え	
史料	古写真	・徳川慶勝撮影写真（幕末）	・名古屋城総合事務所所蔵ガラス乾板写真 ・壬申検査関係写真
	実測図		・昭和実測図 ・昭和実測図野帳 ・名古屋離宮図 ・大正8年実測図
	古絵図 文献	・『国秘録』 ・『熱田之記』	・『金城温古録』 ・『蓬左遷府記稿』 ・宝暦大修理関連史料
外観の変遷	<p>大天守南面立面図</p>		<p>大天守南面立面図 昭和実測図を基にCAD化・加筆・着色及び追記</p>